

令和6年度第2回柏市生涯学習推進協議会会議録

1 開催日時

令和6年10月31日（木）午前10時から正午まで

2 開催場所

柏市沼南庁舎5階 大会議室（柏市大島田48-1）

3 出席者

（委員）

大野委員（会長）、木村委員（副会長）、新井委員、佐藤委員、須田委員、所委員、富田谷委員、中川委員、長峰委員、西原委員、林委員、向野委員（事務局）

宮本生涯学習部長、生涯学習課竹内主幹、同廣瀬担当リーダー、同岡田主事、同田中主事補、同蒨拔生涯学習専門アドバイザー、同岩渕生涯学習専門アドバイザー、同岡野生涯学習専門アドバイザー、牧野中央公民館長、坂口図書館長

4 議題

- (1) 前回会議のふりかえり
- (2) 次期柏市生涯学習推進計画の基本方針等について
- (3) 市民アンケート（案）について

5 会議概要

事務局から会議資料に沿って説明。委員からの意見等は以下のとおり。

○計画全体について

目指す生涯学習像にて、副題に「学びを通じた地域活性化」とあるが、生涯学習はまず個々人の人生の充実や、豊かな人生の実現等に行われるもので、地域の活性化はその結果として実現するかもしれないものである。こうした考えを、生涯学習像に反映してほしい。

生涯学習を推進するにあたり、やはりきっかけづくりが大切である。また、学びの継続経験も必要であることから、小学生から種を撒いていくことが必要である。

生涯学習事業を行うにあたり、ぜひ市町村の垣根を取り払ってほしい。例えば講座等の参加者を市民に限るのではなく、興味のある近隣住民にも開くこと

で交流が生まれ、結果的に生涯学習活動の人材が育成されることも考えられる。他市町村との連携を検討してほしい。

○取組方針1「はじめるきっかけ」を支援

社会のICT化が進んでいるが、はじめるきっかけを生み出すには、活動を紙で配布することも必要である。現在、市内の小中学校では保護者と学校間の連絡アプリでのお知らせが主流となっているが、保護者に情報が集まるため、主体である子どもに届く情報が大人の判断で取捨されてしまう。また、高齢者に対しては紙媒体でないと情報アクセスが難しいことがある。

駅前等、人が集まる場所でのイベント開催がよいのではないか。

子どもの頃の体験活動がなければ、好きなことややりたいことがわからない若者になる。

市民には切実な学びのニーズがあるが、ここで求められていることと、行政の事業にズレが生じている。これは、行政の事業は普通の人（住民の大部分）向けに企画をしているためであり、実は細かいニーズを把握して、本当に学びたい人に届けることが必要である。

特別支援学校では、地域の情報が入手しにくい状況にある。障害のあるかたが、特別支援学校の卒業後も学び続けていくためには、学校に在籍している間に情報が届くことが大事である。例えば、近隣センター等の市施設でも、バリアフリーの施設であるか等、障害のあるかたが利用してもよい施設であるかわかっていない。こうした情報から必要である。

○取組方針2「もっと知りたい、つながりたい」を支援

大学等のイベント情報の配付が必要ではないか。

仲間づくりにより、お互いに教えあう環境となる。

オンライン学習は便利であるが、同じ学びをする人とつながることも大事であり、学びは対面の機会も設ける必要がある。

キャリア教育から発展させてはどうか。

実現へのアプローチに「生涯学習実施機関との連携」を加えるのはどうか。ひろく伝えたい、学びを活かしたいを支援において、実現へのアプローチから「行政機関の連携」を削除しているが、取組方針2の方向性に生涯学習実施機関のネットワーク化があることから、こちらがふさわしいのではないか。

○取組方針3「ひろく伝えたい、学びを活かしたい」を支援

学校の連携だけではなく、団体・民間との連携が必要である。

リーダーシップを持つ人を巻き込む。社会教育士の人材育成も必要ではない

か。

○取組方針4「情報提供による学び」を支援

情報をピンポイントで届けることも必要だが、そのためにはニーズの共有や、行政が民間の情報を把握する必要がある。

民間と行政の区別なく発信することも必要ではないか。

学びについて検索をすると、バラバラな情報がひっかかるため、学びの窓口として一括して情報を見られると良い。一方で、大人と子どもで、情報の届やすい媒体や、理解しやすい内容等が異なるように、別々に発信することも検討すべきではないか。

学びにおいても、学びの広報においても、オンラインは遠方の人とつながりやすい面がある。ハイブリッドも含めて、選択肢を増やす方向が必要ではないか。

6 傍聴者

なし

以上